

論文名	痴呆性老人に対するリアリティ・オリエンテーション訓練の試み
著者名	若松直樹,三村将,加藤元一郎,塚原敏正,正木かつら,原常勝,鹿島晴雄
雑誌名	老年精神医学雑誌
巻/号/頁/年	10/12/1429-1435/1999
抄録	見当識を中心とした認知機能の改善を目的に,入院中の痴呆性老人に対して現実見当識強化訓練法(ROT)を実施した。対象は老人性痴呆疾患治療専門病棟に入院中であり,入院時の Clinical Dementia Rating(CDR)が2,Mini-Mental State Examination(MMSE)得点が10点以上の21例(アルツハイマー型老年痴呆 SDAT13例,多発梗塞性痴呆 MID8例)である(ROT参加群)。統制群として,同じく入院時のCDRが2,MMSE得点が10点以上でありながら,ROTには参加しなかった14例(SDAT10例,MID4例)をROT不参加群に設定した。方法としては,約10人でグループを構成し,見当識を中心とした認知強化訓練を行う定型ROTを取り入れ,週に1回,所定の場所で約1時間の訓練セッションを施行した。3か月後のMMSEの再検査では,ROT不参加群で総得点に変化がなかったのに対して,ROT参加群全体で入院時よりも得点が有意に改善していた。さらに,ROT参加群の疾患別の検討では,MID群でMMSE得点の改善が有意であったのに対してSDAT群では訓練前後で差を認めなかった。これに対し,ROTに参加しなかったSDAT患者では入院時に比して,3か月後には有意な得点の低下を認めた。以上より,定型ROTによる認知訓練は,痴呆性老人の全般的認知機能の維持,ないし改善に役立つ可能性が示唆された。
キーワード	多発梗塞性痴呆 / アルツハイマー型老年痴呆 / 現実見当識強化訓練法 / MMSE